

する時に當つては、殆んど通例の事として認められる現象であるが、それは兎も角、これらの兩作用が、それ自身の直接の政治的目的と共に、外族を漢化する上に多少とも役立つことは争ふべからざる事であるけれども、然も放流適徙は、罪あるものゝ移された地方に於て、彼等自からがその文化を維持したに止まり、これをその地の民族に及ぼして同化の實を擧げる上には、必ずしも功を奏するには至らなかつた例證の認められるものも少くないこと、例へば前にもいふたやうに秦漢以來屢々漢族を西域の邊地に流適したけれども、その結果は僅に屯田衛戍の目的を或る程度に達した彼等が自からの文化を維持したに止まり、大してその地の民族文化を同化するには至らなかつたこと、また秦漢の日南地方に於ける比較的大規模の適徙も、同様に著しく同化の實を擧げ得なかつたこと、かのクメル文化の發達について考へて見ても窺知し得べきことである。内徙に於てはこれに比して更に有力に同化の功を奏したことを認むべきであるけれども、これとても常に同様の効果を認め難いこと、例へば前述の回子の内徙の場合に於けるが如きであるばかりでなく、かく漢族もしくは支那を支配した民族が自から進んでかゝる方法を取つたことは、史上いつの時代何れの朝廷に於ても不斷に行はれたことではない。寧ろかゝる内徙のことは外族自からが進んで或は侵入により、或は請求によつて生起した場合の方が多しことは、更めて論證するまでもないことであらう。これを要するに此等の兩方策は、或る程度漢族の異族同化の上に役立つことは勿論であるけれども、然もこれ等が異族同化の爲に用ゐられた方法であると斷じ得べきではあるまい。然もこの以外には格別この爲に用ゐられた方法を證示したものはないやうである。然らば周知の如き東方諸民族の漢化は、果して如何なる理由によつて生起したことであらうか。自分はこれを以て、定説のやうに漢族に所謂同化力なるものがあつて、その作用によつて生